

村上宣寛，村上千恵子 著

「主要5因子性格検査ハンドブック
性格測定の基礎から主要5因子の世界へ」

- ・ 出版社名：学芸図書株式会社
- ・ 発行日：2001年2月15日
- ・ B4，246頁，2940円，ISBN：4-7616-0351-8

目良 和也(評)

広島市立大学大学院 情報科学研究科

最近では、より良いユーザインタラクションを実現するために、ユーザの感性や嗜好に注目した研究が数多く行われている。しかし、同じ嗜好を持つ人が同じ状況に遭遇しても、反応や感じ方に差が出てくる。その要因の一つに、“性格”がある。

BigFiveモデルとは、人間の性格を5つの主要な因子によって表すものである。従来の性格診断テストや臨床例に対して因子分析を行ったところ性格因子の数が5つであることを支持する研究者は多いが、各因子の意味付けは研究者によって多少異なっている。本書の著者らは、外向性(Extraversion：にぎやかで、元氣よく、話好き、勇敢で、冒険的、積極的な性格)、協調性(Agreeableness：温かく、誰にでも親切な、愉快で、人情のあついで、気前のよい、協調性の高い性格)、勤勉性(Conscientiousness：責任感があって、仕事や勉強に良心的、精力的に取り組む、勤勉な性格)、情緒安定性(Neuroticism：気分が安定していて、不平不満がなく、気楽で、しっと深くない、理性的な性格)、知性(Openness/Intelligence：好奇心があって、知識の範囲が広く、物事を分析したり、考えたりする、思慮深い、創造的、知性的な性格)の5因子を採用している。

本書では、BigFiveモデル理論に基づいて性格分析

を行う主要5因子性格検査についての説明と検査結果からのプロフィールタイプについて記述されている。

本書の構成は以下のようになっている。

1部 性格測定の基礎

- 1章：歴史から学ぶ
- 2章：テストの統計的基礎
- 3章：信頼性，妥当性，効率性
- 4章：テストの開発

2部 主要5因子性格検査

- 5章：歴史をさかのぼる
- 6章：主要5因子性格検査(BigFive)の成立
- 7章：実施法
- 8章：尺度解析
- 9章：プロフィールタイプ

1部では、標準偏差や相関係数、回帰分析といった、統計的情報を扱ううえでの数学的な基礎について説明している。感性や感情を扱う研究をする際によくその評価方法に悩まされるのだが、被験者の取り方や信頼性、妥当性の評価方法など、いくつか参考になるところがあった。

2部では、著者らが作成した主要5因子性格検査についての説明が行われている。過去のさまざまな性格因子分析結果からBigFiveに至る研究の流れや、主要5因子性格検査の作成手順および評価実験について述べている。ここで特筆したいのが、この主要5因子性格検査は、5因子の強弱を調べるだけではなく、回答の妥当性や建前度についても測定できることである。

そして9章では主要5因子の検査結果からのプロフィールの解釈文が記載されている。これは外向性+協調性-といった単独因子の大小だけでなく、外向性+かつ勤勉性-のような、因子の複合した状態についてもプロフィールされている。

なお本書で扱っている主要5因子性格検査のシステムのデモ版は、インターネット上から無料でダウンロードできる。Vector(<http://www.vector.co.jp>)のサイトで“BigFive”で検索すればダウンロードサイトにたどりつけるので、興味のある方は試してみてください。